

きる、心の休まる場所となっていくような環境づくりを心掛けていきたいと思
います。

■ NPO法人国際活動市民中心（CINGA）

野山 ありがとうございます。それでは宮崎さん、足立区での日本語ボラン
ティアの支援講座のことを含めてお話をお願いします。



宮崎妙子

宮崎妙子 NPO 法人国際活動市民中心（CINGA）日本語チ
ームの宮崎です。皆さまの中でCINGAという名前をお聞き
になったことがおありの方、いらっしゃいますか。1人、2
人、3人、4人。すごくマイナーですね。でも、今日この名
前を覚えて帰っていただければうれしいです。CINGAはまだ
小さいNPOですが、志高く大きな夢を持っています。それ
は、今、お話がありましたような行政サイド、県だとか区
だとかとは異なる立場から社会貢献していける、そのような
立場に私たちはいると思います。

このCINGA日本語チームと、今、お話いただきました
鈴木さん、そして足立区、足立区のボランティアの方々とのお付き合いは結構長
くなります。そういう背景から、鈴木さんたちとの協働によるボランティアのた
めの講座についてお話したいと思えます。講座についてお話しする前に、まず
CINGAについてご説明いたします（CINGAのHP、[http://www.cinga.or.jp/
index.html](http://www.cinga.or.jp/index.html)参照）。

CINGAは2004年10月に設立され、その目的は「日本で暮らす外国人の支援
事業を市民活動として行う。外国人にとって住みやすい日本社会構築を目指す。
日本人市民の多文化共生意識を育む」ことにあります。そしてその特徴は、専門
性を持った市民の集まりであるということ。企業経営者、大学教授、弁護士、税
理士、精神科医、マスコミ関係者などさまざまな職種の方が名前を連ねています。
私自身も日本語教師です。このようなCINGAの活動のひとつに「CINGA日本語
チーム」があり、地域の日本語教室ボランティアのための講座を企画、実施して
います。行政が支援するボランティアベースでの日本語教室の目的とは何なのか、
そこには個々人の自己実現のためだけではない目的が、社会的な目的があるので
はないかと考えますが、CINGAの日本語教室ボランティアのための講座という

のは、「CINGAの目的を日本語教室関係者と共有し、対等な人間関係を作りながら、日本語学習支援を考える」ということを柱にしています。

足立区は、今、鈴木さんがお話しになりましたように多文化共生の地域づくりを区が掲げています。そして、ボランティア教室というものが外国人にとって信頼され心の休まる場になるように区が支援するというふうに鈴木さんはおっしゃっています。そのような場づくりを目標に、講座には参加型学習の手法をいくつも取り入れています。そして日本語の文法も参加型、地域リソースの活用ということも全員で考えていきたい、そのようなプログラムを考えています。

◆「最大のリソースは人」

参加型学習の手法というのは、対等な人間関係とはどういうものか、それが実感できるすぐれた手法だといわれています。実際、受講者の方々からいろいろなことに気づかされたというようなコメントを毎回いただきます。それから日本語の文法も参加型ということで、日本語の文法に関して、1グループ6人ぐらいでひとつのテーマに向かってみんなで考え解決していきます。これは皆さん汗だけでやったださるのですが、でも、にこやかで楽しそうです。誰かが疑問を発し誰かが答える、そしてみんなで考え協力して文法の法則を再認識していく。そのような過程で協力体制というものが生まれるように思います。この方たちはこの講座が終われば地域の日本語教室を立ち上げる方たちですが、日本語教室が生まれたら、日本語の問題だけではなく、さまざまな問題を解決していかなければなりません。その問題解決に協力して立ち向かっていくための基本姿勢の大切さを共有していただきたいと思っています。

地域リソースの活用、これも地域日本語教育プログラムづくりには大切な要素ではないかと思います。講座に参加してくださる方の多くは足立区に長年住んでいらっしゃる方で、足立区に愛着を持っていらっしゃいます。そのような方が、ご自分の地域にさまざまなものごとを発掘して、それを発表していただく。「最大のリソースは人です。その人を教室に連れて行って学習者と一緒に話してもらえば、もうそれに勝るリソースはないのではないか」という言葉がとても印象に残っています。

足立の方は本当に感受性が豊かというか、柔軟というか優しいです。それを支える区の方も、鈴木さんたちもとても一生懸命頑張ってくださいています。そんな中で私たちは講座を受け持たせていただいているのですが、いつも私たちは多くの学びと気づきというお土産をドッサリ持って帰ることができています。私自

身、地域の日本語教室に出入りしていますが、地域の日本語教室は日本人にとっても大きな学びの場であると感じています。

日本語教室では外国籍の方々の抱える問題にしばしば直面します。その解決は容易ではありませんが、みんなと一緒に考え、自分たちの地域を考え、さらには社会を考える、そこから市民活動が育っていくように思います。市民活動はCINGAの目的でもあります。NPOとは行政のように確としたものではなく、アメーバのように動き、いろいろな組織を、人を、ものをつないでいく。そのような働きができるのではないかと考えます。

最後に、支援講座の課題ですが、お話ししたのは足立区における支援講座、足立区では「ボランティアのための講座」ではなく、「支援講座」と呼んでいらっしゃるのですが、日本語教室ボランティアのための講座、基礎編とでもいうものだと思います。その基礎編の一層の充実ということ、私たちはこれから目指したいと思います。そして先ほど、鈴木さんがおっしゃった中級講座、これも充実させていかなければいけないと思っています。そしてさらにより多くのボランティアの方々や行政関係者の共感が得られ、支持していただけるようなプログラム、そのようなプログラム作りが私たちの課題です。



■武蔵野市国際交流協会（MIA）

野山 次に武蔵野市国際交流協会（MIA）の河北さん、お願いします。

河北祐子 武蔵野市は、よく市長が自慢しているんですが、東京都のおへそに当たる東京都の真ん中に位置する人口約13万人の市です。そこに住んでいる外国人の登録者数は2,400人ちょっとですから、多くはないという地域です。ところ